

図書館の資料構成と 電子コンテンツ導入

筑波大学附属図書館情報管理課

関川 雅彦

平成21年度大学図書館職員短期研修

京都大学:平成21年10月1日

東京大学:平成21年10月29日

内 容

- 情報の媒体に関する変遷
- 学術情報環境の変化と大学図書館を取り巻く状況
- 大学図書館に求められるもの
- 学術出版物の発行状況と資料購入費の推移
- 電子ジャーナルの契約
- 電子ジャーナル化がもたらすもの
- 新たなビジネスモデルの模索
- e-Bookの可能性
- 今後の資料構成とサービス
- おわりに

情報の媒体に関する変遷

- 紀元前 石碑、甲骨、木・竹簡、粘土などに文字
- 105 蔡倫が紙を和帝に献上(『後漢書』)
- 1455 ゲーテンベルグによる『四十二行聖書』
- 1665 The Philosophical Transaction刊行
- 1964 Index Medicusのコンピュータ化
- 1988 商用インターネット開始
- 1994 JBCがスタンフォード大のサーバに登載
- 1999 国大図協のSD-21コンソーシアム

学術情報環境の変化

- 学術情報(論文)の爆発的増加とタイトルの増加
第二次大戦後のビッグサイエンス、学問の細分化、
新興国での学術論文の急増
- シリアルズ・クライシス
雑誌価格の高騰、購入タイトル数の急減
(1980年代の米国、1990年代の日本)
- 商業出版界の寡占化
STM分野の雑誌売上の60%は上位4社、上位11社で99%
- 電子ジャーナルの出現
学術雑誌の60%がオンライン化、英米出版社の場合90%

大学図書館を取り巻く状況

■ 資料購入費の減少

欧米に比べてもともと少ない総予算比率、国立大学法人化による運営費交付金の1%削減、少子化による経営の逼迫

■ 雑誌価格の上昇と新規タイトルの増加

論文数の増加、研究者の要求の多様化への対応

■ 電子ジャーナルの出現

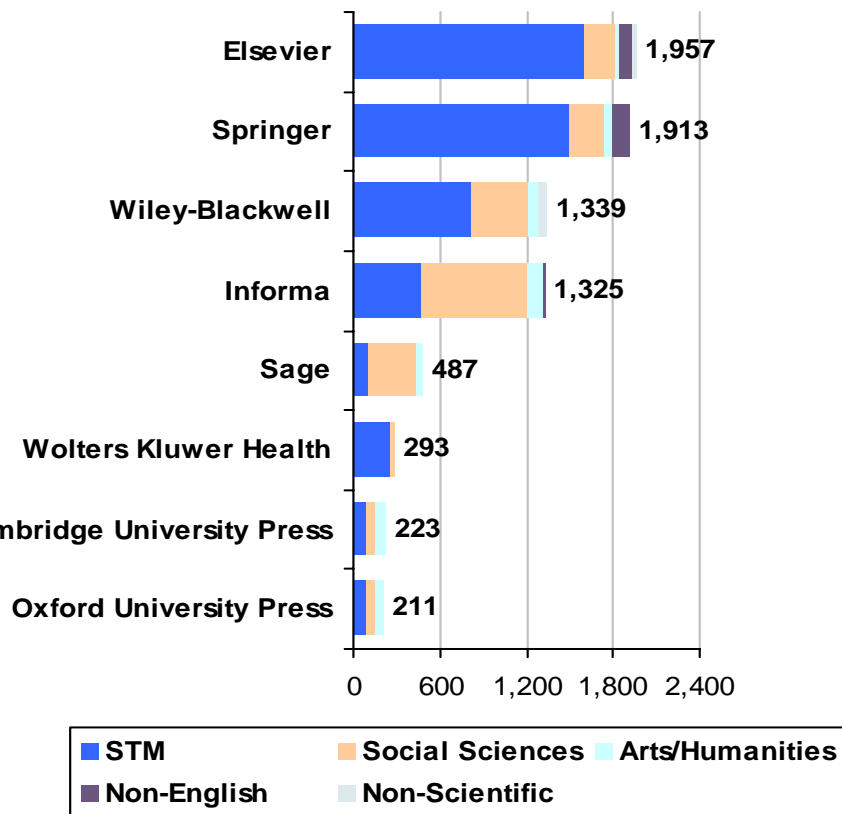
非来館型サービス、冊子とは異なる契約モデル

■ コンソーシアムの形成

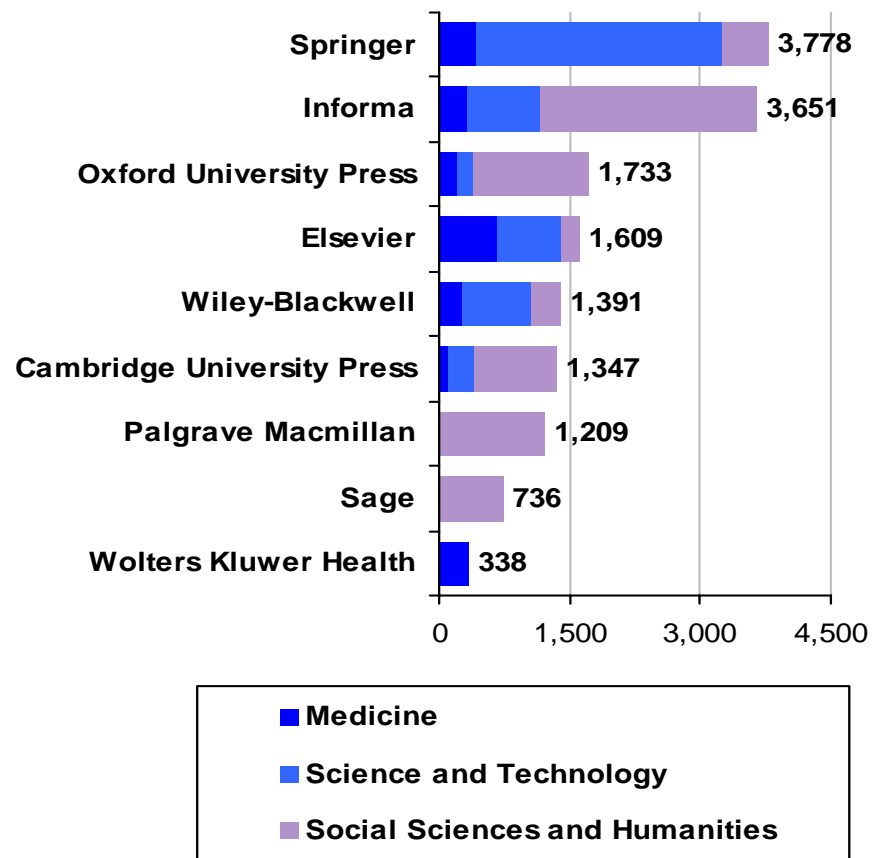
共同購入、出版社との直接交渉

学術出版物の発行状況

ジャーナル出版点数 2008



英文書籍出版点数 2007

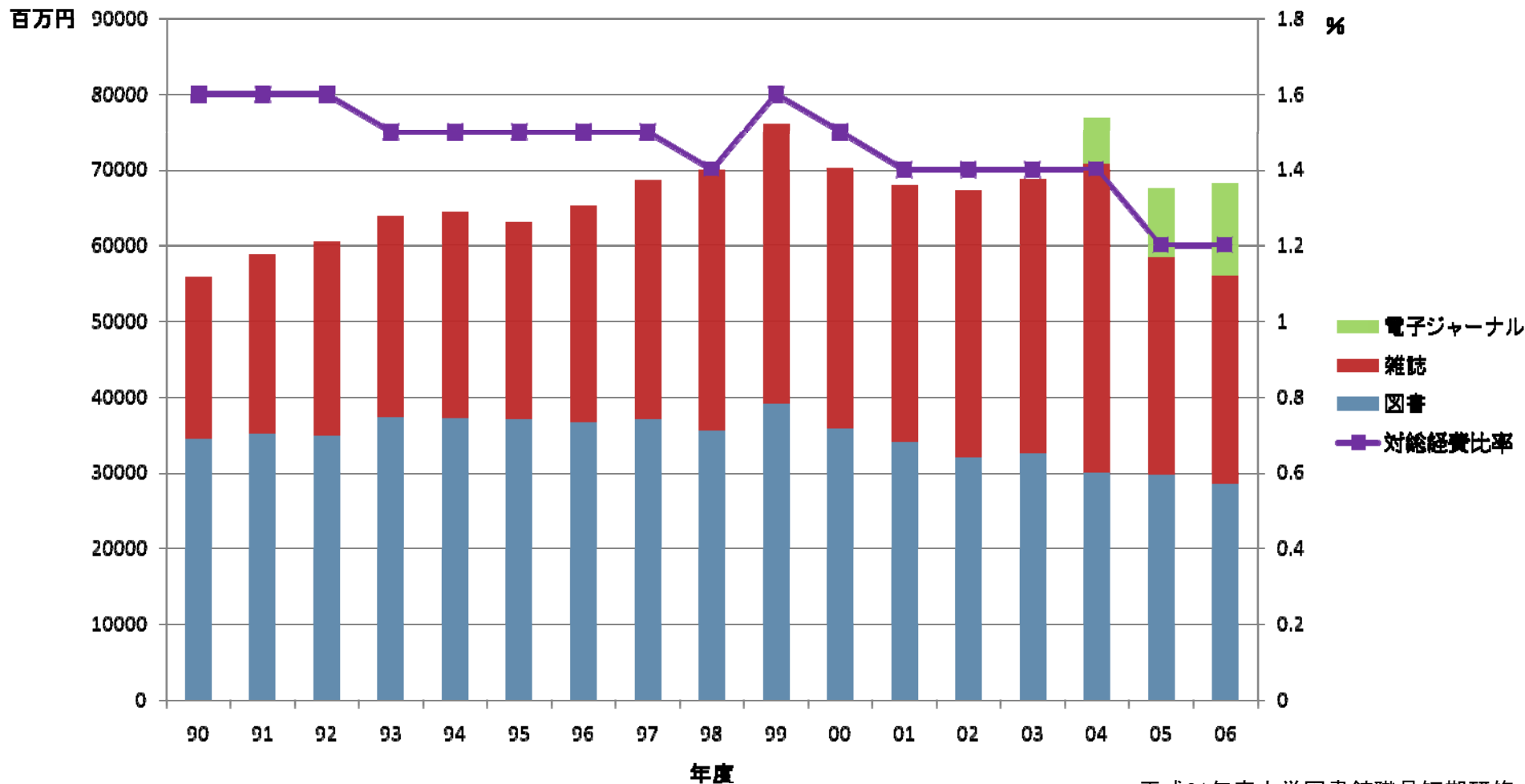


大学図書館に求められるもの

「大学図書館は、今日、電子ジャーナルに代表される電子情報とインターネットの普及により、**多様化し増大する各種情報**を利用者である学生、教職員に効果的、効率的に提供し、また必要とされる情報関連のサービスを組織として行うことが重要となっており、こうした**電子情報と紙媒体を有機的に結びつけた**新たな意味での『ハイブリット・ライブラリー』の実現が、大学図書館に強く求められている。」

「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」(平成18年3月23日)

大学図書館の資料購入費の推移

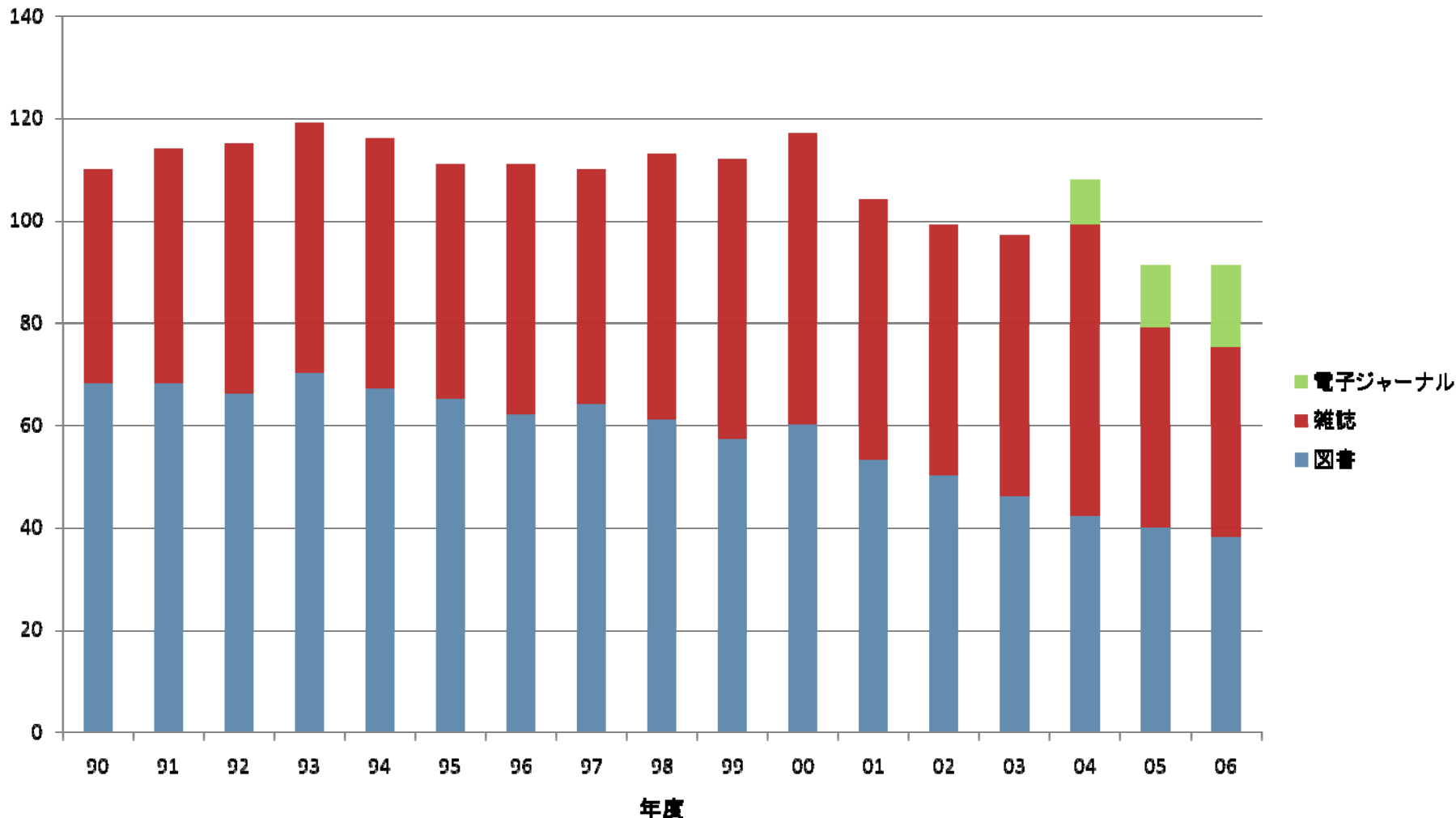


(大学図書館実態調査結果報告・学術情報基盤実態調査結果報告より)

平成21年度大学図書館職員短期研修
 京都大学:平成21年10月1日
 東京大学:平成21年10月29日

1 大学あたりの資料購入費の推移

百万円



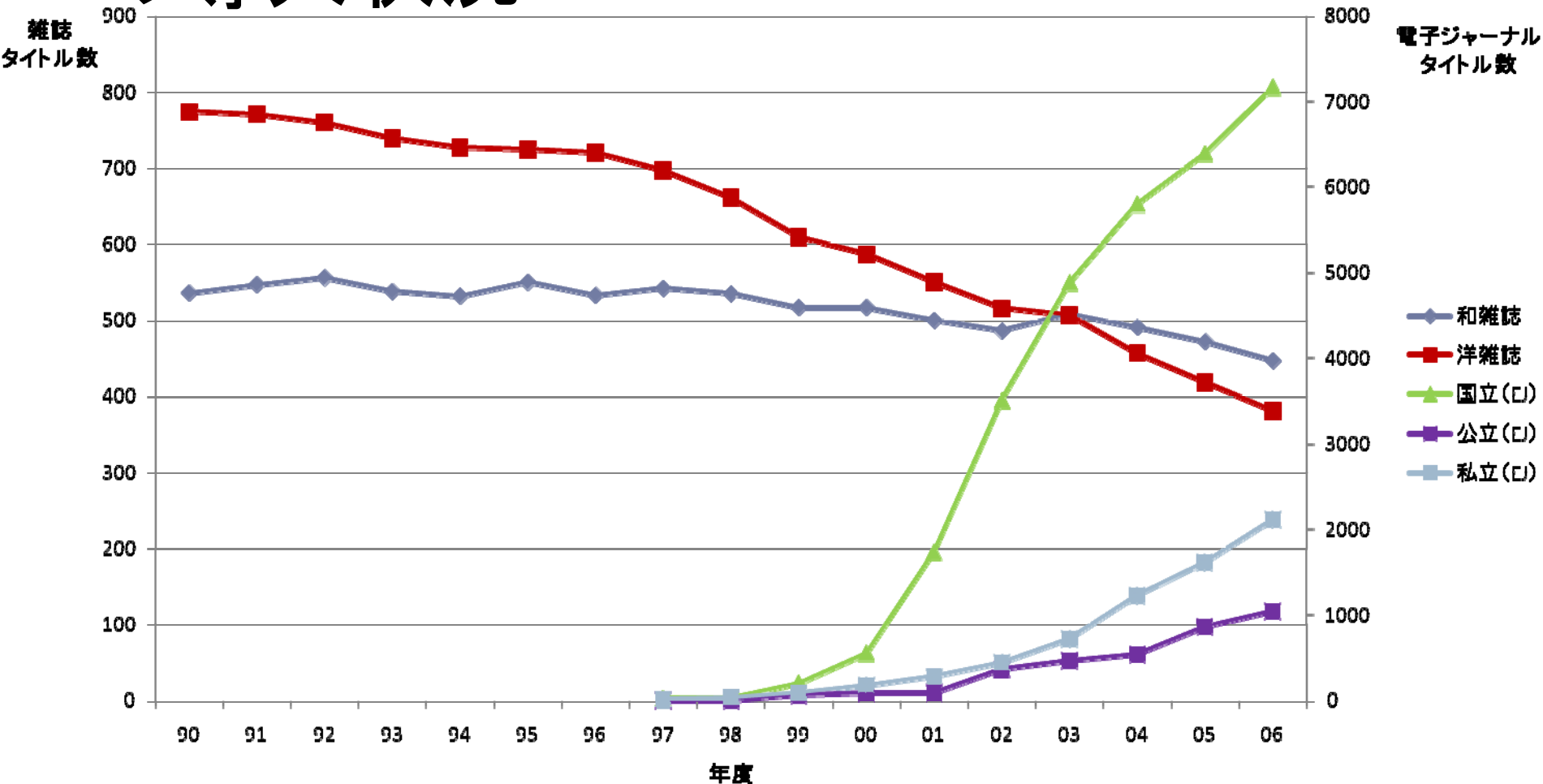
(大学図書館実態調査結果報告・学術情報基盤実態調査結果報告より)

平成21年度大学図書館職員短期研修

京都大学:平成21年10月1日

東京大学:平成21年10月29日

購入雑誌数の推移と電子ジャーナルの導入状況



(大学図書館実態調査結果報告・学術情報基盤実態調査結果報告より)

平成21年度大学図書館職員短期研修

京都大学:平成21年10月1日

東京大学:平成21年10月29日

電子ジャーナルの契約(1)

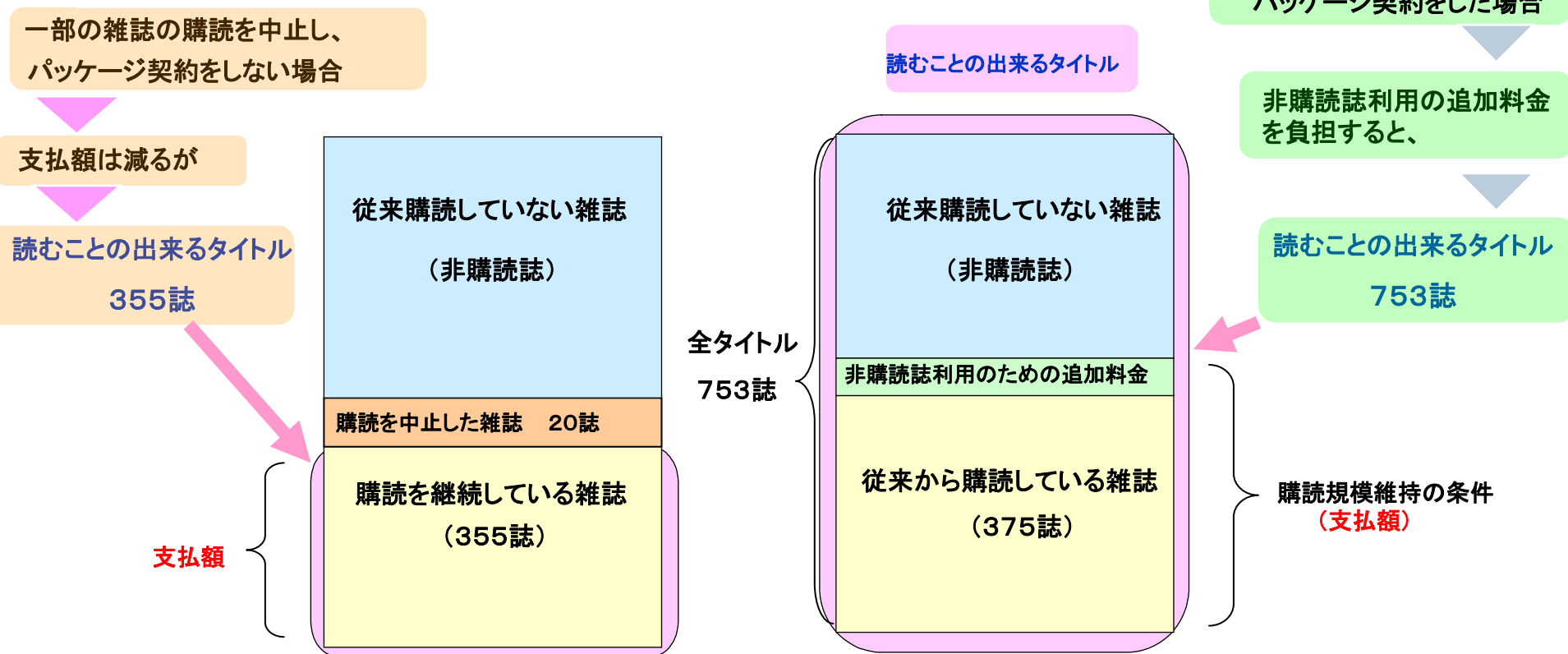
- 冊子の購入
 - ⇒ 個々のタイトル単位での購入
- 電子ジャーナルの購入(契約)
 - ⇒ 個々のタイトル単位での購入 or パッケージ契約による購入

パッケージ契約のメリット・デメリット

- 従来よりはるかに多くのタイトルが電子的に利用できる。
- 購読規模額維持が条件のため、毎年の値上げにより支出額の確保が困難になる。(E-only への転換を進めることにより、多少の節減余地はある)
- タイトル毎の購入ができなくなるので、All or Nothing の高いリスクを負うことになる。

電子ジャーナルの契約(2)

パッケージ契約(Big Deal)の例



電子ジャーナルの契約(3)

基本要素

■ BASE PRICE(SPENDING)

⇒ 将来の支払額の出発点となる基礎的な金額⇨過去の支払額を一定程度継承する当該年度の支払額 (CURRENT SPENDING)

■ FTE(Full Time Equivalent)

⇒ 大学の構成員(研究者、学生)を専従に換算した数。日本の場合、教員は常時研究をしているのではなく教育も担当していることを考慮して換算。(平成17年度科学技術白書)HEAD COUNTとは異なる。

■ TIER

⇒ 構成員数、契約金額、研究分野等々を考慮して大学をグループ化した階層

■ 従量制

⇒ 利用時間、あるいは利用回数など、利用量に応じた料金体系のこと。
(⇔定額制)

電子ジャーナルの契約(4)

条件

■ Site License

⇒ 大学などの「組織単位」で電子ジャーナル利用の契約をし、IPアドレスの範囲内での利用を無制限に認めている。日本の場合、多くは1大学1サイト。

■ Price Cap

⇒ 毎年の価格の値上げの上限値(%)。事実上の値上げ率。

■ DDP(Deeply Discounted Price)

⇒ 冊子を購入する場合のリストプライスからの大幅値引き価格。

■ E-only契約

⇒ 冊子を購入せず電子ジャーナルのみの契約。値引きが適用される。

留意点

■ 電子ジャーナルの「ユーザ」

⇒ ・Authorized User: 当該機関の構成員

・Walk in User: 当該機関の非構成員だが伝統的に図書館の利用が認められきた範疇の人々

■ IP Blockig

⇒ (出版者にとって)大量のダウンロードが実行された時に特定のIPからの利用を停止すること。必ずしも不正ダウンロード(systematic Download)とは限らない。

・二次情報データベース経由 ・ブラウザのリンク先読み機能(プラグイン)

コンソーシアムによる交渉

■ コンソーシアムとは

複数の大学・機関がよりよい条件で電子ジャーナル等を導入できるように出版社等と交渉するために形成した連合体

■ コンソーシアムの形態

- ・ 交渉、契約、支払などすべてを一元化(=非営利代理店)
- ・ 交渉を一元化、支払・契約は個別大学(日本のコンソーシアム)
- ・ 出版社からの提案を周知するだけ(?)

■ 日本の場合

- ・ JANUL(国立大学図書館協会)
- ・ PULC(≡公私立大学図書館協会)
- ・ JMLA/JPLA(医学図書館協会/薬学図書館協会) など

■ ICOLC(International Coalition of Library Consortia)

世界のコンソーシアムの定例会議。年2回、北米と欧州で開催。

電子ジャーナル化がもたらすもの

冊子

- 個々の教員研究費に基づく財源
- 個々の教員の判断に基づくタイトル選定

シフト

電子
ジャーナル

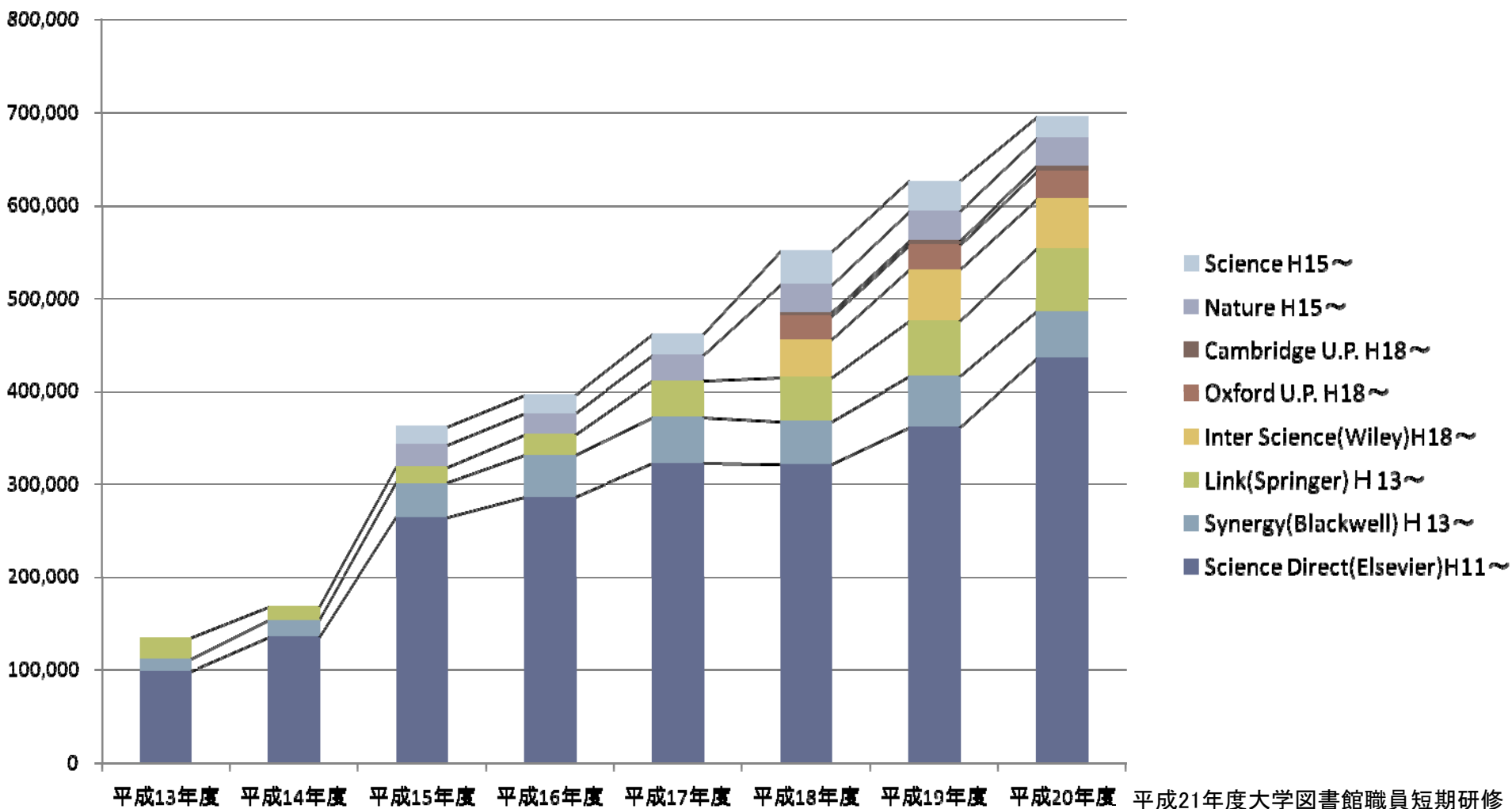
- 新しい契約形態によるアクセス環境の不安定化
- 全学的利用形態への負担の不公平感

共通経費化の必要

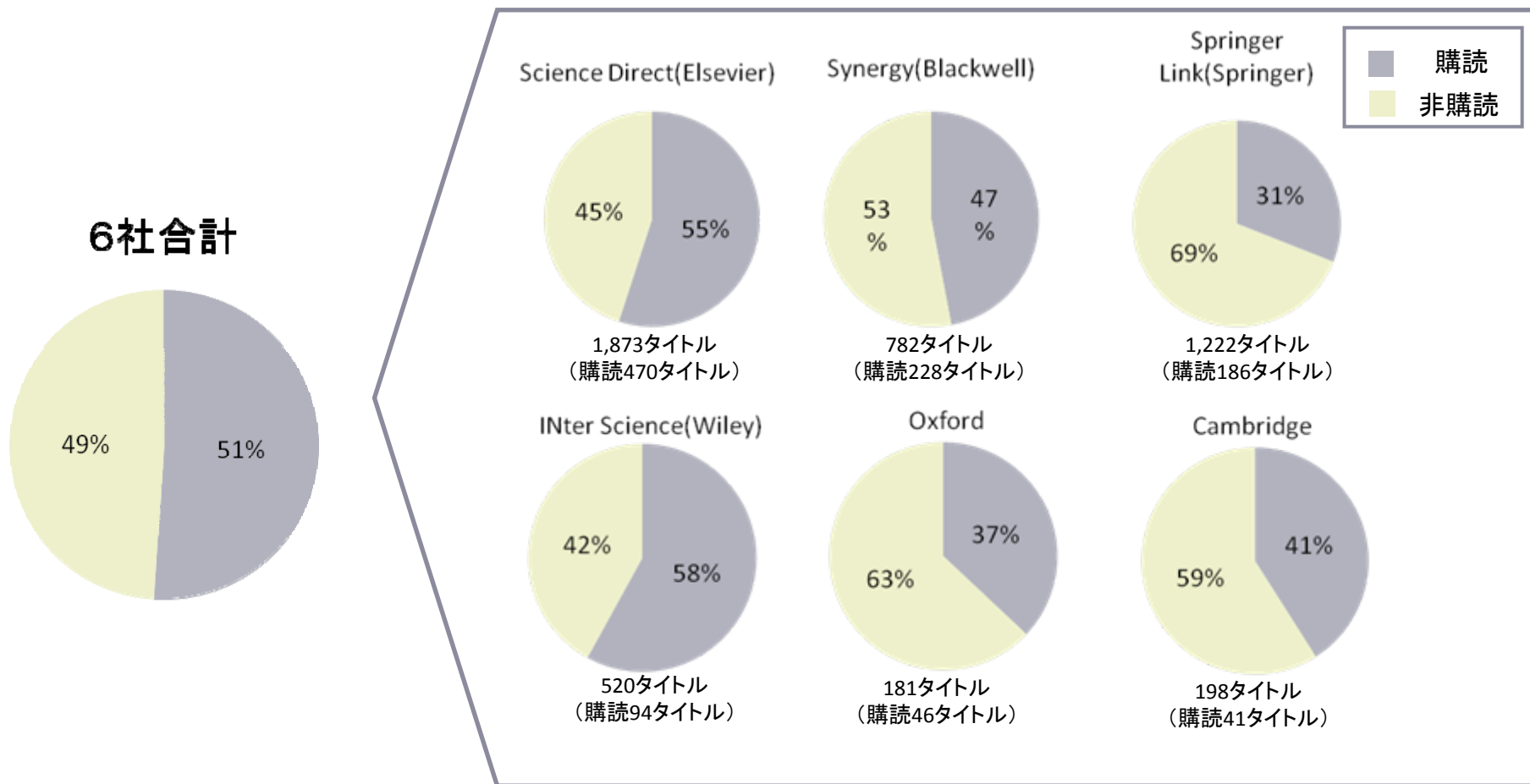
学術情報基盤として位置づけ

- 全学的視点による学術情報の安定的供給
- 雑誌(論文)の利用実態の数値化・明確化
- 学術情報に対する経営的視点の導入(費用対効果)

筑波大学の例(1)－ダウンロードの推移－



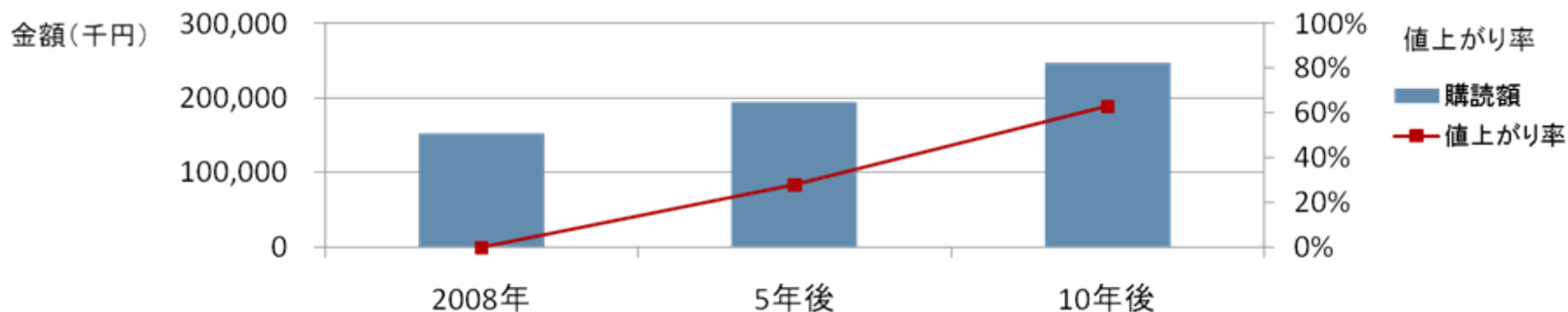
筑波大学の例(2) — 購読非購読の割合 —



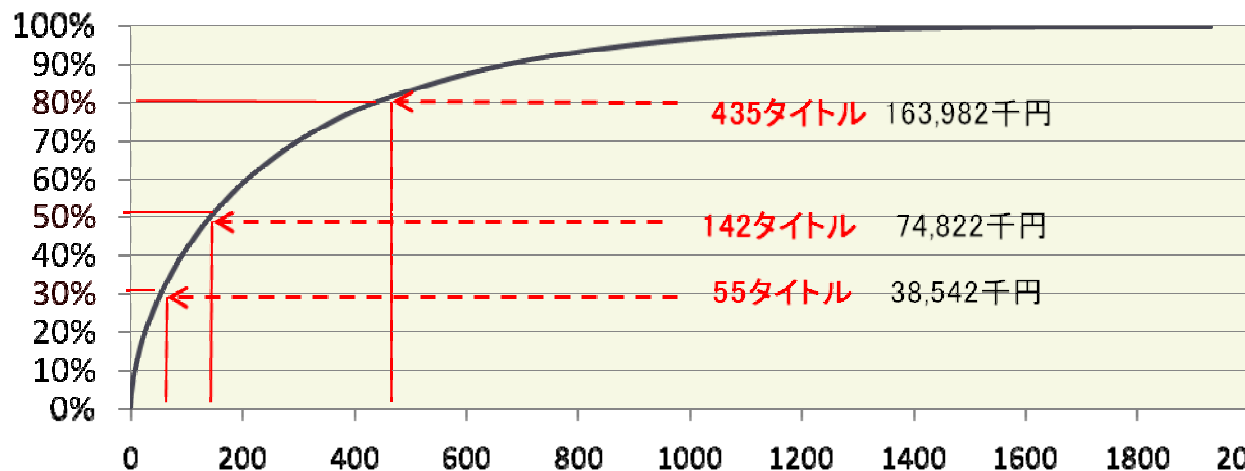
筑波大学の例(3)

購読規模の値上がり

試算条件: E-only、Cap 5%、DDP、パッケージ対象外タイトル除く



利用カバー率 —Elsevierの2007年度—



—利用カバー率

新たなビジネスモデルの模索

■ Big Dealの限界

- ・でも一番コストパフォーマンスがよい？(JISCの報告)
- ・Elsevier、Springer、Wiley-Blackwellと国大図協学術情報流通改革委員会が交渉
- ・柔軟で選択的で持続可能なモデルの構築？

■ 2008年秋のリーマン・ショックによる経済危機

- ・ICOLC: “Statement on the Global Economic Crisis and Its Impact on Consortial Lisences” (January 19, 2009)
- ・ARL: “The Global Economic Crisis and Its Effect on Publishing and Library Subscriptions”(February 19, 2009)
- ・国大図協: 「学術情報流通の改革に向けての声明ー学術基盤である電子ジャーナルの持続的利用を目指してー」(平成20年4月)

■ 文科省

科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会・学術情報基盤作業部会:
「大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について」(平成21年7月)

e-Bookの可能性

- 同時アクセス、オンライン
複本の提供、NetLibrary(アクセス数1)、授業形態との関係
- パッケージ販売
買切り制、コンソーシアム契約の例、
出版社単位での購入が馴染むか
- アクセシビリティ向上の必要性
OPACによる検索、電子ジャーナルとの同一プラットフォーム
- 言語の問題
学部レベルの教科書のほとんどが日本語、国内出版社

e-Bookのアクセス例

東京大学

	1タイトルあたりのアクセス回数 (年間回数/契約タイトル数)
Springer(3000)	5.1437(6.0785)
Wiley(760)	3.6204
NetLibrary(600)	1.9335

2004年から2007年9月までの統計(Springerは2007年1月から)

筑波大学

	1タイトルあたりのアクセス回数 (年間回数/契約タイトル数)
NetLibrary(68)	4.9265

2008年5月から2009年4月までの統計

内訳

- ・すべて日本語でOPAC検索可
- ・貸出:59タイトル/68タイトル
- ・貸出1位:46回(全貸出335回)
- ・2つの全集で貸出78回
- ・上位9タイトルで貸出の50%
- ・13タイトルはe-Bookのみ

今後の資料構成とサービス

- ニーズ(サービス)に応じた資料構成
教科書、参考図書、オンライン版原資料、
ブラウジングの必要性の有無
- 来館型・非来館型サービス
学習・教育と研究、研究分野による差異
- 電子リソースの管理・検索
ライセンスの管理、メタデータの管理、
横断検索システム

おわりに

- 教員と書店(代理店)との間の取次？
 - ⇒ 存在感を示す**チャンス**！
- 変わりゆくもの、変わらないもの(流行と不易)
 - ⇒ 図書館は教育研究のための**支援機関**
- 専門職集団として**信頼される**図書館職員に
 - ⇒ **夢と希望と誇り**を胸に…
- 大学の盲腸から真の意味での**心臓**へ